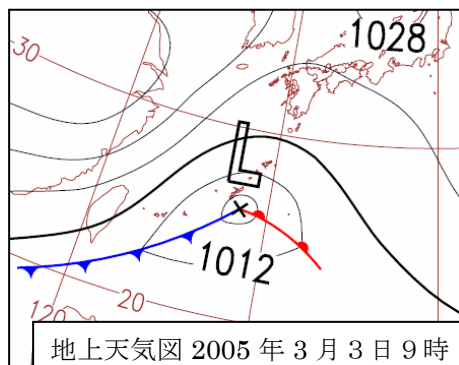


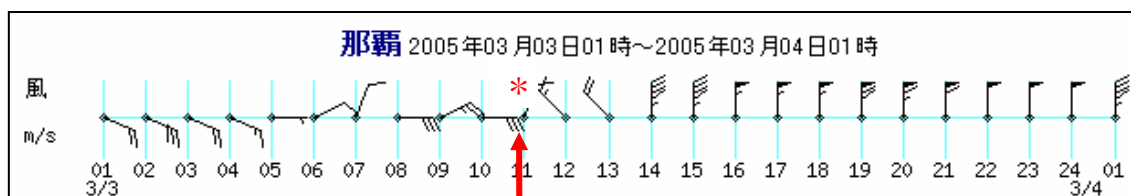
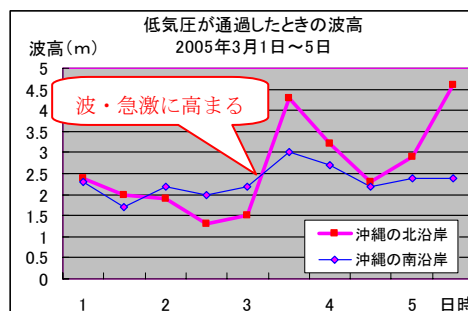
防災一口メモ

ニンガチ・カジマーイ（二月・風廻り）

沖縄には昔から漁業者の間で言い伝えられ、恐れられてきた旧暦2月のニンガチ・カジマーイ（二月風廻り）と呼ばれる海の荒れる日があります。この時期には沖縄近海で発生した小さな低気圧が急激に発達し、一年で気圧系の速度が最も早く、天気や風の廻り（変化）が早いことから、ニンガチ・カジマーイ（二月・風廻り）と称されて、台風に次ぐ荒れ日として漁業関係者から恐れられています。



上の地上天気図は、2005年3月3日沖縄近海で発生した「ニンガチ・カジマーイ」と言われる低気圧です。その時の風向風速の時間系列で見ますと、*風向は東から北西に急変し、12時には低気圧が沖縄本島地方を通過、最大風速が14.2m/s、最大瞬間風速が24.1m/sと北よりの強い季節風が吹き出しました。また、波高の状況は9時に1.5mあった波が急に4.3mまで高まり大しけとなりました。



今日ではこの種の低気圧や前線通過は、ある程度予測可能となりましたが、天候が急変し海が荒れたりするため、海上業務に携わる方は常に気象台が発表する新しい気象情報の入手を心がけ、風の急変・強風や高波に十分注意する必要があります。